



内科系シニアレジデントコース：呼吸器内科



○呼吸器内科の概要

1. 当呼吸器内科の特徴

当呼吸器内科は、県内外の広範な地域より紹介患者を受け入れており、各種感染症、間質性肺炎、気管支喘息、COPD、睡眠時無呼吸症候群、肺癌などを含め常時 40 床前後の入院患者の診療に当たっている。外来には一般呼吸器外来に加え、当科を基盤とした専門センター部門「アレルギーセンター」を擁しているのが大きな特徴である。このセンター部門は気管支喘息をふくむアレルギー疾患を包括的にかつ専門的に診療するとともに、小児科・皮膚科・耳鼻科の各科の教員にも指導を受けることができ、総合アレルギー専門医育成機関として機能を果たしている。同様に「睡眠呼吸センター」をも擁し、この地区の睡眠無呼吸症候群診療の中核的存在を担っている。肺癌については 2007 年以降手術症例は国際医療センターに移動したが、同センターの呼吸器腫瘍内科教授が当科の診療カンファレンスに毎週参加し、専門的助言をおこなう指導体制となっている。

後期研修は、幅広い呼吸器疾患を、高度に専門的な水準で診療する能力を培うことを基本目標としている。加えて、アレルギーセンターでの外来専門的診療の研修を通じて、アレルギー専門医を取得することを基本的な目標としている。さらにひとつの特徴として、サイエンスマインドの涵養を重要な方向性として掲げており、全教室員に何らかの研究テーマを付与し、学会活動に参加させる指導方針である。希望者には国際学会での発表機会、また米国などへの留学を積極的に指導している。なお研究分野では気管支喘息などのアレルギー性疾患の免疫学的・臨床的研究、COPD の PCR を用いた気道感染病態解析の研究、非接触センサーによる診断機器の開発、間質性肺炎の臨床的研究、肺癌の基礎的・臨床的研究等を進めており、国内外における学会で精力的な活動を行っている。

2. 診療実績

新入院患者数は年間約 1000 人、1 日平均入院患者数は約 40 人である。外来患者数は年間のべ約 23,000 人、1 日平均外来患者数約 80 人である。主な疾患別入院患者は肺炎、各種の間質性肺疾患、肺癌、COPD、気管支喘息、肺抗酸菌感染症、肺真菌症、睡眠時無呼吸症候群などである。外来のセンター部門である「アレルギーセンター」では、年間外来患者数は約 1 万人、1 日平均外来患者数は約 30 人である。当センターは当科、小児科、耳鼻科、皮膚科と横断的な診療を行うことを特徴とし、後期研修時には呼吸器内科医がこれらの各科教授外来においても研修を行うことが可能であり、総合的アレルギー専門医の育成機関としても機能している。当科が本邦ガイドライン作成で中心的な役割を果たしたアレゲン免疫療法は年間約 1200 例、各種アナフィラキシーに対するアドレナリン自己注射システム管理を約 200 例に行っている。睡眠呼吸センターでは、毎年 300 ～ 350 例のポリソムノグラフィを実施し、100 例以上の CPAP 療法を導入しており、埼玉県内で最大規模の診療実績を達成している。

3. 診療科の体制（平成 28 年 9 月 14 日現在）

指導責任者：

永田 真（教授・診療部長・運営責任者）

診療スタッフ：

永田 真（教授）：呼吸器内科学、アレルギー学、臨床免疫学

仲村 秀俊（教授）：呼吸器内科学、閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群
 杣 知行（准教授）：呼吸器内科学、アレルギー学、臨床免疫学
 中込 一之（講師）：呼吸器内科学、アレルギー学、臨床免疫学
 小宮山 謙一郎（講師）：呼吸器内科学、肺癌、アレルギー学
 内田 義孝（助教）：呼吸器内科学、アレルギー学、臨床免疫学
 嶺崎 祥平（助教）：呼吸器内科学、感染症学、アレルギー学、
 山崎 進（助教）：呼吸器内科学、アレルギー学、肺癌
 三尾 友彦（助教）：呼吸器内科学、睡眠時無呼吸症候群
 内田 貴裕（助教）：呼吸器内科学
 四宮 俊（助教）：呼吸器内科学
 三浦 雄（助教）：呼吸器内科学
 赤上 巴（助教）：呼吸器内科学
 家村 秀俊（助教）：呼吸器内科学
 高瀬 真知香（助教）：呼吸器内科学
 内藤 恵理佳（助教）：呼吸器内科学

4. 当呼吸器内科のプログラムの目的と特徴

呼吸器内科は、日常診療で頻繁に遭遇する疾患が多く、また一臓器にとどまらず全身疾患との関わり合いが非常に多い分野であるため、呼吸器疾患のみならず、多彩な疾患・病態が診療できる利点がある。

呼吸器学会・アレルギー学会・呼吸器内視鏡学会の各専門医取得の基礎となる研修プログラムである。呼吸器専門医取得のために、埼玉医科大学国際医療センター呼吸器内科（呼吸器腫瘍内科）での一定期間の研修機会を提供している。そののちに呼吸器腫瘍を専門としたい場合には異動も可能である。

アレルギー専門医取得を目的としては、科内勉強会（専門医による講義を月 2 回）、院内講演会アレルギーフォーラム（年 4 回）を行っている。そのほか、スタッフが関与する学内外での講演会・研究会が呼吸器感染症、呼吸療法、COPD、肺癌などについて頻繁に行われており、これらの学習機会への参加を指導している。

また前述のように当科ではサイエンスマインドの涵養を極めて重要でかつ大きなテーマとして掲げている。これは国際社会における後期研修（フェローシップ）では研究体験を重要視し、良医育成に必須のアイテムとして取り扱っているからである。日本のシステムではこれは各医科大学、各教室の主催者の考え方によって大きく扱いかたが異なっている。当科では米国など、国際社会でのフェローシップに準拠するように、後期研修に参加する若手医師にも研究テーマを与え、学会発表、論文作成を目標に学術指導を行っている。

なお専門的検査手技・治療としては、

気管支喘息・アレルギー疾患：アレルギープリックテストによるアレルギー迅速診断、呼気 NO・ピークフロー・モストグラフ等によるモニタリング、アレルギー免疫療法、各種抗体療法、気管支サーモプラスティ（温熱）療法、アドレナリン自己注射システム管理指導

慢性閉塞性肺疾患：各種吸入療法指導、包括的呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法

肺悪性腫瘍の集学治療と緩和治療、

肺血栓塞栓症：下大静脈フィルター

気道出血：気管支鏡的止血法、気管支動脈塞栓術

呼吸不全：非侵襲的陽圧呼吸、人工呼吸器管理
などが体得できることとなる。

5. 取得できる認定医・専門医

日本内科学会総合内科専門医

日本呼吸器学会認定専門医

日本アレルギー学会認定専門医

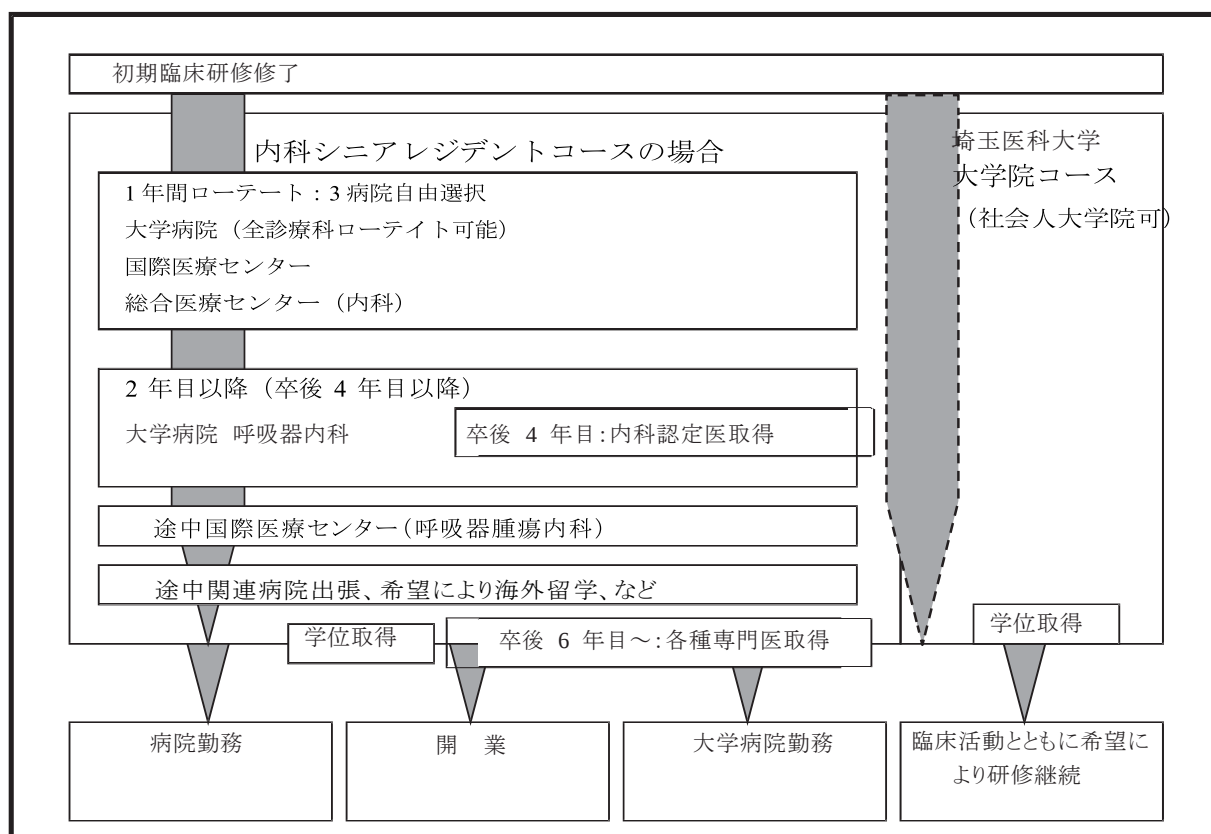
以上は全員が取得を目指すこととしている。その他に取得可能なおもなものとして下記がある。

日本呼吸器内視鏡学会認定医

日本睡眠学会認定医

日本禁煙学会認定専門指導者

6. キャリアデザイン



7. 大学院

入局と同時に大学院へ入学した場合、2年間の呼吸器臨床研修後後半の2年間は研究に専従し、学位を取得することを原則としている。社会人大大学院生（有給）も随時受け入れている。

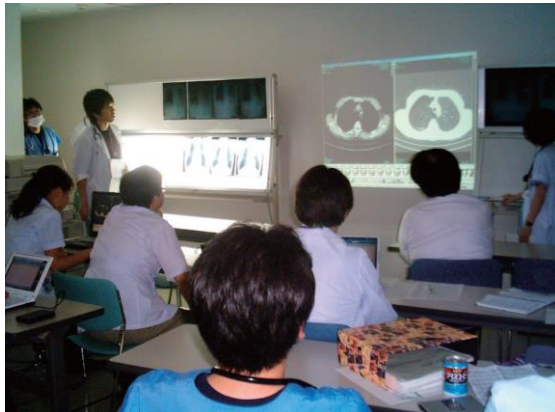
8. 連絡先：呼吸器内科

医局長：内田義孝

E-mail：dauchi@saitama-med.ac.jp

TEL：049-276-1319（医局直通）

<診療科内カンファレンス>



<気管支鏡検査>



<教授回診>



<各種セミナー>（アレルギーフォーラムにて「喘息を乗り越えての金メダル」のご講演をいただいたスピードスケート金メダリスト清水宏保氏と）

